

「ステップ福岡」 創立一周年記念祝賀会

改めて皆様へ感謝!!

十月一日午前十一時半から福岡リーセントホテルにおいて、福岡市腎友会通院介護送迎センター「ステップ福岡」創立一周年記念祝賀会が開催されました。

『さわやか』からは八幡事業所の山田と小倉事業所の梶原の二人が出席しました。他には来賓の方々、腎友会の役員、ボランティアの方々そして利用者の方など、五十数名でした。浜辺事務局長の開会の言葉と黙とうで始まりました。

真砂会長よりボランティアの皆様やお世話になっている先生方への感謝と「ステップ福岡」の現状を述べられました。

来賓挨拶には重松クリニック院長の重松勝先生を始めとして平尾クリニック院長王幸則先生、白十字病院の大里紳一郎先生など、病院側から見

た通院介護の状況などをお話しして下さいました。

その他、佐賀県腎協会長の富崎様、長崎県腎協会長の北川様、福岡県腎協会長の毛利様の挨拶がありました。

懇親・交流会が始まり、その中でボランティアの皆様の中

紹介があり、それぞれ、熱心にボランティアに取り組みでおられる姿勢が伝わって来ました。最後に真砂会長の閉会の挨拶があり幕を閉じました。参加して改めてボランティアの皆様への感謝、行政などからの理解を得るために大変な努力をされていると思えました。

すがすがしい秋空のごとくすばらしいコーディネーターさんとボランティア様に支えられ福岡の透析患者さんは幸せではないでしょうか。「ステップ福岡」の今後ますますのご発展をお祈りします。



海外のボランティアさん からのお便り



永 淵 寛

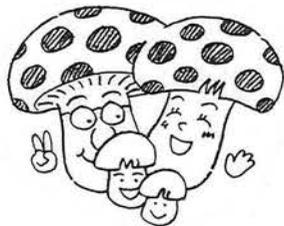
通院介護センター「さわやか」様

しばらくご無沙汰いたしております。

「さわやか」のスタッフ及びボランティアの皆さんお変わりありませんか。私は、九月二十五日インドネシア共和国バンドン市に入国し二十七日より任務の為、指定の職場に勤務しております。当地に着任して早や二週間が過ぎ、私生活の面でも余裕が出てきましたので、ここに筆を取る事にしました。今回当地に勤務する事になった理由は国際協力事業団(JACA)からの要請で当バンドン市にある、金属機械工業研究所と称する所で、鑄造(鑄物)技術の指導育成にあたることです。私には指導をするほどの技術の持ち合わせがあるかどうか分かりませんが、関係諸氏の方々の推薦により当任務を与えられましたので任務の遂行に専念するつもりです。今回任務背景には、インドネシアにおいては、自動車、電気製品、

機械等の組立産業に部品を供給するのに十分な育成がなされておらず、経済開発の原動力と位置付けられる工業化の推進の妨げとなっている。鑄造技術は、産業発展の代表的な要素技術の一つとして位置付けられ、国内企業関連の組立産業の要求に見合った品質及び高精度の部品を安定的に供給するのが難しく、量的にも、国内需要を国内生産でカバー出来ず、輸入に依存している状況である。このような状況から、インドネシア政府は、研究所の強化により、同国の産業構造を強化・高度化することを目的とした、プロジェクト方式の技術協力を日本政府に要請してきたものです。大変分かりにくいことを書き並べましたが、今頃の日本の気候は如何でしょうか。私が日本を離れるころまでは、残暑が厳しく汗をふきながら空港まで移動したことを思い

出します。多分今頃は過ごしやすい気候に成っている事と推察します。当地では、毎日暑い日が続いていますが日陰とか、部屋の中は快適な生活が出来ます。これから雨期に入りますので毎日のように一時的な雨が降るものと思われまます。日本では、少しずつ寒くなつて参ります。江頭会長始めスタッフの方々、及びボランティアの皆様のご活躍を祈念致しまして筆を下ろさせて頂きます。



編集後記

前回は初めてのチャレンジでしたが、とても好評で「さわやかレディーズ」一同喜んでいたのでつかの間、今回号、プレッシャーで早くも悩んでおります。

持続する事の難しさを感じています。江頭会長お疲れさまでした。読者の皆様、しばらくは長い目で見守ってください。

透析病院紹介

門司港腎クリニック

院長 田中秀欣先生

今回より始めました透析病院紹介のコーナーです。

第1回目は門司港腎クリニックです。場所は観光地でもある「門司港レトロ」のすぐ近くにあり、4階建てのビルで患者さんは現在30名の方が通院され、90名まで透析可能だそうです。平成11年12月1日開業で、出来立てほかの病院です。

田中院長先生を筆頭にスタッフの方5名に事務員さん2名のとてもアットホームな透析病院です。先生はもちろんスタッフの方々の透析への理解、患者への心くばりなど、いつもカンファレンスが行われているようです。

院長先生の温厚なお人柄で、患者さんも安心して透析生活が出来ると思います。

7月に田中先生より患者さんのボランティア依頼の連絡があり、「さわやか」の活動内容等熱心に質問され、病院内にポスターを掲示して下さったりと「さわやか」事業に賛同していただきました。新しい病院でもあり、先生にお会いしてみたいこともあって、見学を申し出たところ快くお受けいただき、早速行って来ました。

約束の午前11時にうかがうと白衣を翻しスニーカー姿で出迎えてくださいました。一目みて「活動的な先生だな」と感じました。受付・待合室・更衣室・検査室・透析室と案内していただき、最後にアットホームな雰囲気のある食堂にて田中先生のお話を伺いました。お話の内容を先生ご自身がまとめて下さいましたのでご紹介致します。

当院の理念：

心と身体のケアをチーム医療で実践し地域医療に貢献する。

当院は地域の透析施設の不足から誕生しました。透析医療を中心に地域医療に貢献することが当院の責務と考えています。透析医療では、透析患者さんが元気で長生きして頂けることを目指しています。患者さんのお話に聴き入り、毎日朝夕のカンファレンスと院内LANシステムを通じて患者さん情報を共有化し、良質な透析医療を供給しています。透析液は開業以来配管末端ET（エンドトキシン）値が感度以下を維持し、5時間



院長プロフィール

田中秀欣 たなか ひでよし

S37年、北九州市小倉生まれ。S62年九州大学医学部卒業後九州大学医学部第二内科入局、死の宣告から見事に社会復帰していく導入患者さんを目の当りにし、腎臓専門医を目指す。

関連諸施設（九州大医学部付属病院、同腎疾患治療部等）に勤務この間、九州大学大学院医学系研究科において遺伝子の研究に従事し博士号修得。基礎研究に没頭する日々その後、“最先端の研究であっても、物言わぬDNAに愛を感じない”と臨床、特に維持透析療法を指向し、H11年12月1日開業。

透析を主流としています。腎臓の代わりに体にたまった老廃物を抜く治療ですから、患者さんには、じっくりたくさん透析で除去するようにお話しています。その効果は、貧血の改善、食欲亢進など明らかです。その延長として、オンラインHDFも開始します。

また、腎臓病外来では栄養指導などの患者教育に力を入れ、地域にお役立てればと、日曜以外は内科外来を毎日診療しています。

透析医療は確立された感がありますが、未解決な問題が少なくありません。若くして開業したので、これから10年、20年かけて挑戦していきたいです。生まれたばかりの透析施設ですが、志は高く、診療は地道にと、スタッフ一丸となって努力しています。



【ちょっとひとこと】

当院は、九州で最も北のてっぺんにある透析施設です。関門トンネル口傍で、関門海峡を望む観光地「門司港レトロ」に立地しています。門司港は、海と山に囲まれ、海の幸は豊富で、空気はきれいで、穏やかな住みやすい町です。

皆様、門司港を宜しく。

【スタッフからのひとこと】

院長の“自称独創的アイデア”が、Windowsのアシスタントヘルプのイルカ君のように跳び跳ねています。

笑顔をもっとに頑張っています。